

金融グローバル化のなかで新興国が直面する問題 - 通貨危機の発生可能性と政策対応 -

現代の世界経済は、金融グローバル化の中にある。金融グローバル化は、第二次世界大戦後のブレトンウッズ体制下の資本移動規制と固定相場制・金ドル交換の枠組みによって封じ込まれていた。しかしながら、1970年代のニクソン・ショックと変動相場制への移行、各国の資本移動性規制の撤廃と金融自由化によって、金融グローバル化が進展し、この流れは通信・情報技術の劇的な発展、世界的な金融ニーズの高度化・多様化、世界的低成長移行にともなう内外市場での収益によって加速されていった。そして、1990年代以降になると、金融グローバル化は途上国や新興国を巻き込んで進展していった。

金融グローバル化によって、途上国や新興国は大きな影響を受けている。金融グローバル化のなかで、途上国・新興国は、経済成長を実現する一方で、その行き過ぎによってバブル、そして、危機を経験することになった。実際に、中南米においては1970年代の成長と1980年代の債務危機とその後の「失われた10年」、アジアにおいては1990年代の「東アジアの奇跡」とも呼ばれる経済成長と1997・1998年のアジア通貨危機といった経過をたどっていった。今日において、新興国は、国内の金融システムの脆弱性、資源価格の変動や米国の金融政策に左右されやすい構造といった問題を抱えている。そのため、中国をはじめとする新興国は、停滞する先進国経済に代わる世界経済の成長のエンジンとして期待される一方で、通貨危機に直面する懸念が出されており世界経済の新たな火種になる可能性すら指摘されている。

こうした今日の新興国経済の動向に着目して、本テーマでは、金融グローバルの特徴をとらえながら、通貨危機を中心に、新興国の直面する問題を検討していく。そして、それを踏まえて、新興国が危機に直面することなく経済成長を実現するための政策を、「通貨危機の予防策」と「通貨危機発生時の対応策」を中心に考えていく。

主な論点	留意点
<ul style="list-style-type: none">・ 金融グローバル化とは何か・ 通貨危機をめぐる問題・ 現代の新興国における問題・ 通貨危機の予防策・ 通貨危機発生時の対応策	<ul style="list-style-type: none">・ 金融グローバル化がもたらす新興国経済へのインパクト・ 通貨危機の定義、通貨危機の教訓、通貨危機の発生メカニズム・ 世界経済の成長のエンジンとして期待されていた新興国は危機に陥るのか、世界経済の火種になりうるのか・ 先進国と新興国の取り組むべき政策